

2022年 7/5 作成者 [redacted] 確認者 [redacted] 検定日 2022.7.5

No.	検定対象となる結果	検定対象となる内容	ソフトウェア検定結果																		
			検定項目	検定項目	検定項目	検定項目	検定項目	検定項目	検定項目	検定項目	検定項目	検定項目									
1	検定項目 10100: 01 検定結果	検定項目 10100: 01 検定結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	検定項目 10100: 02 検定結果	検定項目 10100: 02 検定結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	検定項目 10100: 03 検定結果	検定項目 10100: 03 検定結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

No.	検定対象となる結果	検定対象となる内容	検定結果																		
			検定項目																		
1	検定項目 10100: 01 検定結果	検定項目 10100: 01 検定結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	検定項目 10100: 02 検定結果	検定項目 10100: 02 検定結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	検定項目 10100: 03 検定結果	検定項目 10100: 03 検定結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	検定項目 10100: 04 検定結果	検定項目 10100: 04 検定結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	検定項目 10100: 05 検定結果	検定項目 10100: 05 検定結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	検定項目 10100: 06 検定結果	検定項目 10100: 06 検定結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	検定項目 10100: 07 検定結果	検定項目 10100: 07 検定結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	検定項目 10100: 08 検定結果	検定項目 10100: 08 検定結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	検定項目 10100: 09 検定結果	検定項目 10100: 09 検定結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	検定項目 10100: 10 検定結果	検定項目 10100: 10 検定結果	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

スケッチ名 D-1トレンチLカットピット 1/10 底盤, 西面②スケッチ

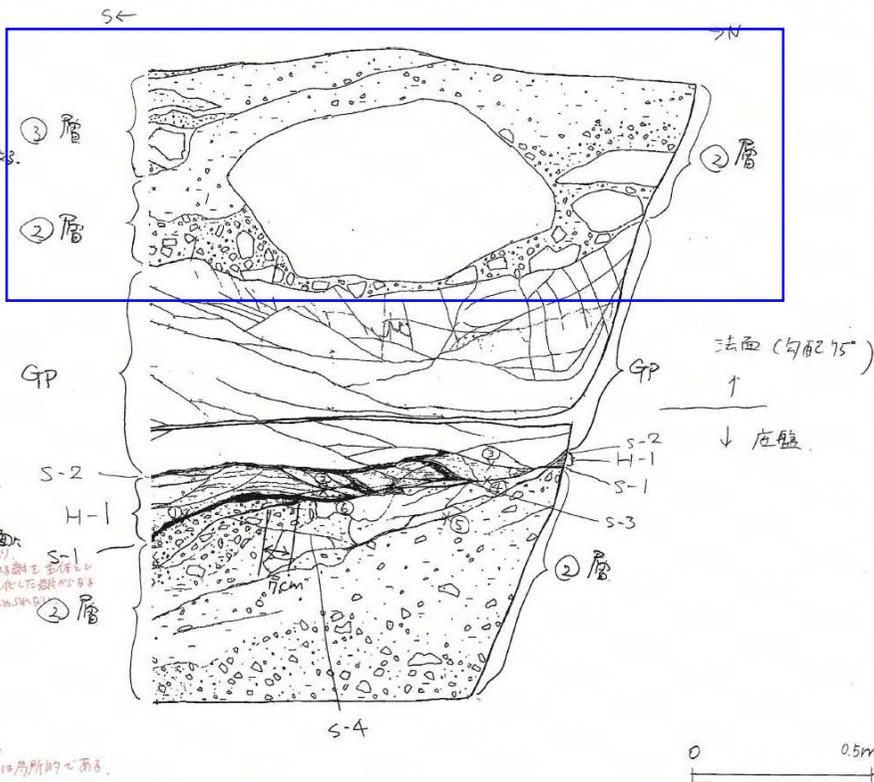
スケッチ原因に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位, スケール(または, グリッドの間隔)

③層
 淡黄褐色(CSTR8/4)のシル質砂・砂質シルトである。
 砂・礫を層状に挟む。
 ②層
 淡黄褐色(OFR8/3)の礫・砂・シルトの砂礫である。
 礫率は15~40%, 礫は風化した花崗岩の角角~歪円礫。
 礫径は10~250mm主体, 最大50mmの礫を認め。
 下部はシルト, 上部は粗砂からなる。
 下部は砂礫主体, 上部は礫・砂・シルト主体。
 GP: 灰白色(LSTR8/2)~淡黄褐色(OFR8/4)の花崗岩礫である。
 強く風化している, 全体的に変質している。

- ① f: N7W78W
 素材・R60
- ② f: N33E80W
- ③ f: N8867W
- ④ f: N9E68W

- ⑤ f: N8N82W
- ⑥ f: N6W76W
 素材・R80

S-1: セル断面, 灰白~褐色粘土 厚1~5mm Hc-1
 基盤岩と堆積岩の境界は分る。粗粒部はセル断面
 して断片的に分る。断面がウツ。
 S-2: セル断面, GP-1とGP-2の境界は分る。
 粗粒部はセル断面して断片的に分る。断面がウツ。
 S-3: セル断面, S-1から分る。
 S-4: セル断面, ②層の砂礫層にみかけ右2~3
 7cmの厚さを与えるR1面である。
 H-1: カクテルコップ 実際はカクテルコップ Hj
 灰白色(CSTR8/2)~淡黄褐色(STR8/4)
 シル質砂・砂質シルト状, 全体的に軟弱である。
 カクテルコップの特性が認められる。粗粒部は分る場所がある。
 厚さ粗粒部認められる岩片を主体とし, 基質は細粒化岩片からなる粗粒部
 のまじりに認められる。



作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]
 確認日 (実地): 2022年7月5日
 確認者: [Redacted]

D-1 トレンチLカットピット 1/10 底盤, 西面②

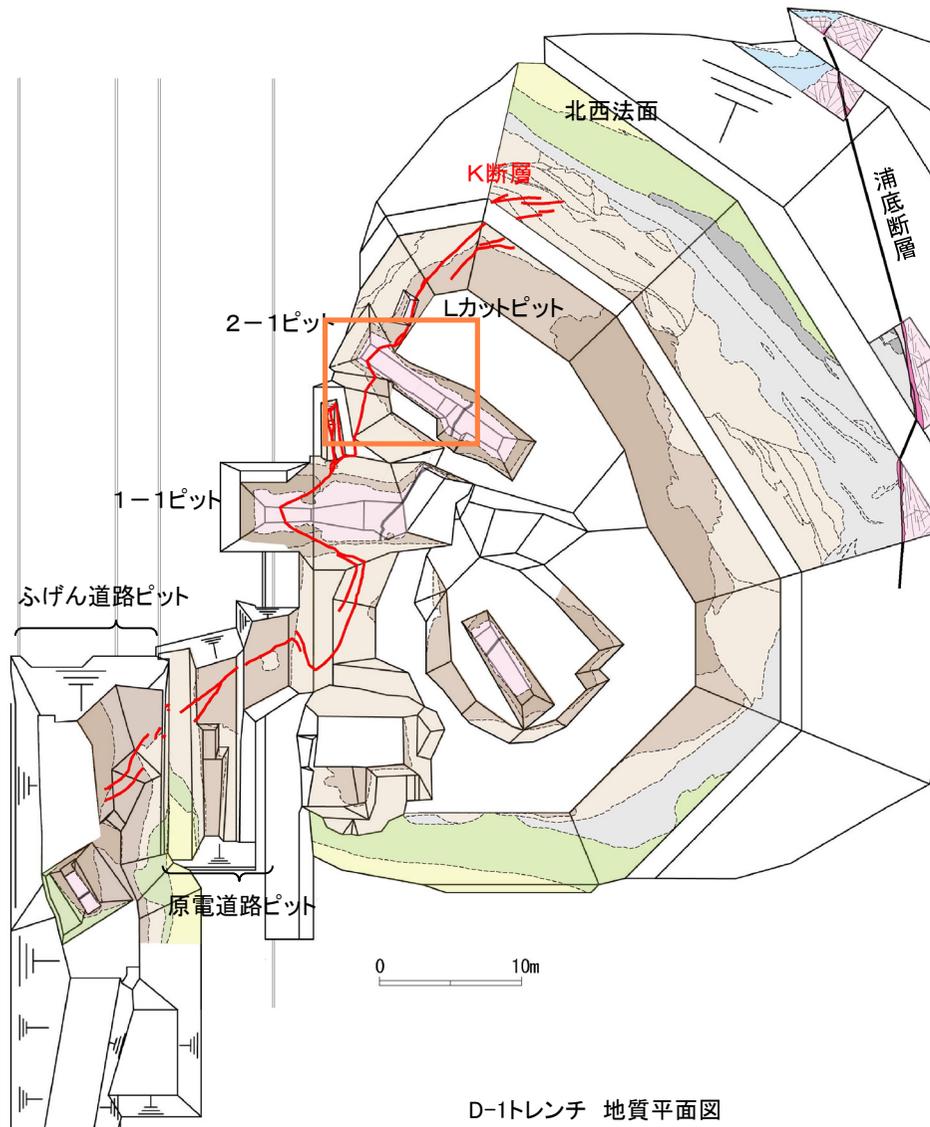


余白

K断層の性状

139 (地質平面図) 修正箇所：橙色枠

- K断層の分布図を以下に示す。
- K断層は、D-1トレンチの北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において連続して認められる断層であるが、後述の通り、これより南方へは連続せず、重要施設の直下に連続していないと判断している。



D-1トレンチ 地質平面図

地質層序表

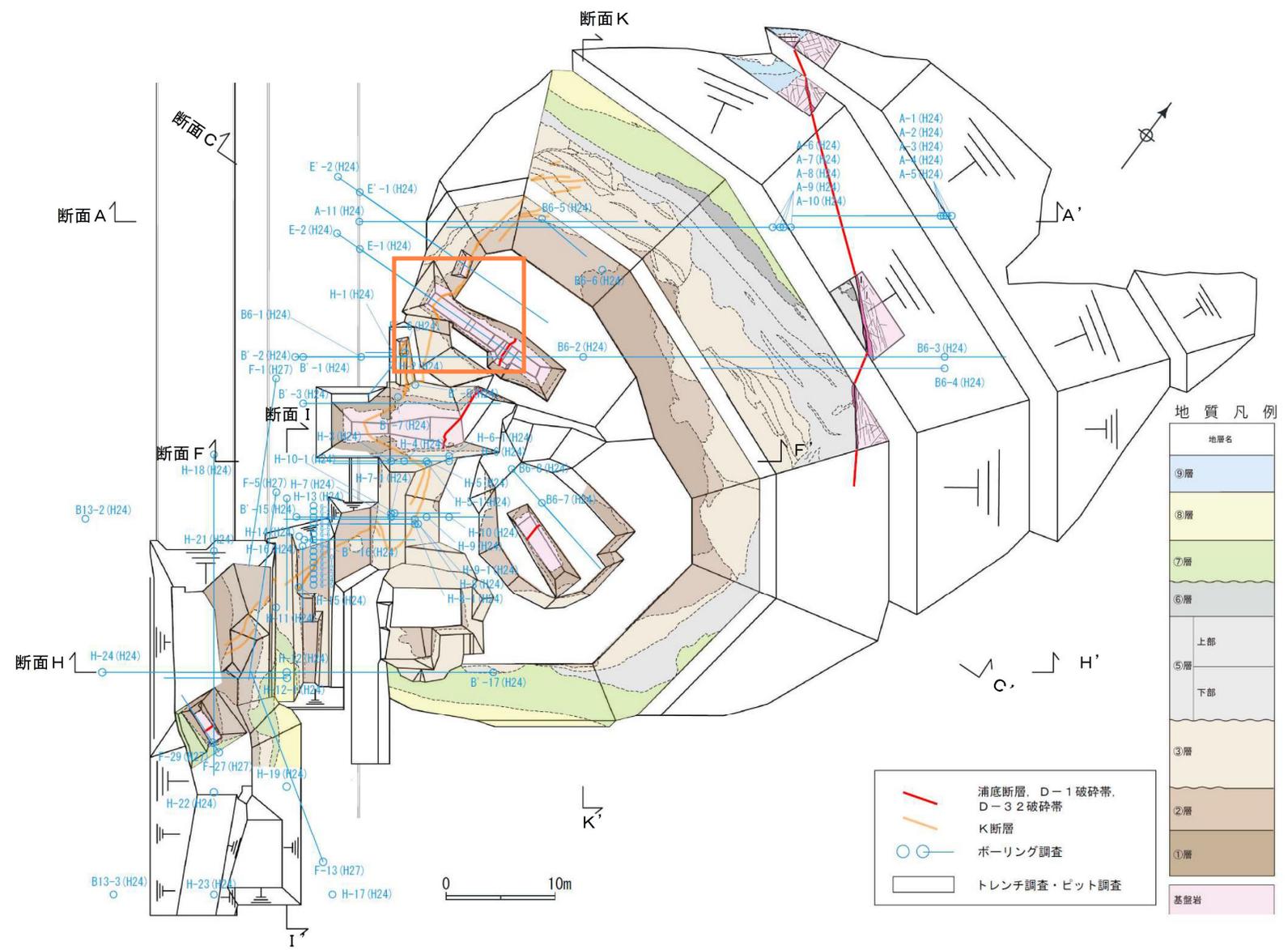
年代	地層名	色調	層相	年代指標		堆積年代							
				テフラ	花粉								
第四紀	完新世	⑨層	褐～にぶい黄褐	礫混じり砂質シルトからなる。⑧層とは平行な不整合面で接する。			MIS2以降						
	後期更新世	⑧層	褐～黄橙	シルト質砂を基質とする砂礫からなり、一部に成層構造もみられる。下位の⑦層とは平行な不整合面で接する。	AT降灰層準を含む (約29～27ka)		MIS3とMIS2の境界付近						
		⑦層	褐～褐灰	礫混じり砂質シルト～礫混じりシルト質砂よりなる。山地斜面では下位層とは平行な不整合面で、低地では下位層を削刺した不整合面で接する。	DKP降灰層準を含む (約59～58ka)		MIS4～3						
		⑥層	灰～暗灰	腐植質砂質シルト～シルト質砂からなり、木片を多く含む。⑤層上部と整合関係で接する。	-		MIS5a～5b						
	中期更新世	⑤層	上部	灰白～浅黄橙	シルト質砂礫主体で、シルト層～シルト質砂層が不連続に層状を呈し、腐植質シルトを含む。緩い西側傾斜で一定の層厚を示す。	K-T ₂ 降灰層準を含む (約95ka)	温暖期の花粉を含む	MIS5c					
			下部	灰白～浅黄橙	シルト質砂礫主体で、シルト層～シルト質砂層が不連続に層状を呈し、腐植質シルトを含む。北法面の東方に向かって層厚が厚くなる。③層とは不整合関係で接する。	美浜テフラ (127.8ka)の降灰層準を含む	温暖期の花粉を含む	MIS5e					
	前期更新世	③層	③層	浅黄橙～橙	砂礫主体で、シルト層やシルト質砂層を層状からレンズ状に投在し、チャンネルによる削り込みが複数認められる。最上部には土壌化した地層が認められる。	MIS6のテフラを含む	-	MIS6以前					
									②層	にぶい橙～灰白	くさり礫を多く含む塊状で締まった砂質シルトから砂及びシルトと砂の互層からなり、一部には腐植質シルトを含む。	-	温暖期の花粉を含む
									①層	にぶい赤褐～明黄褐	よく締まった淘汰の悪い砂礫からなり、くさり礫を多く含む。	-	
古第三紀	基盤岩												

(凡例)
 — : 整合境界, - : 検出されていない
 ~ : 不整合境界, \ : 実施せず

D-1トレンチ断面図(断面位置図)

139 : 2-1ピット底盤を掘り込み後の形状に修正

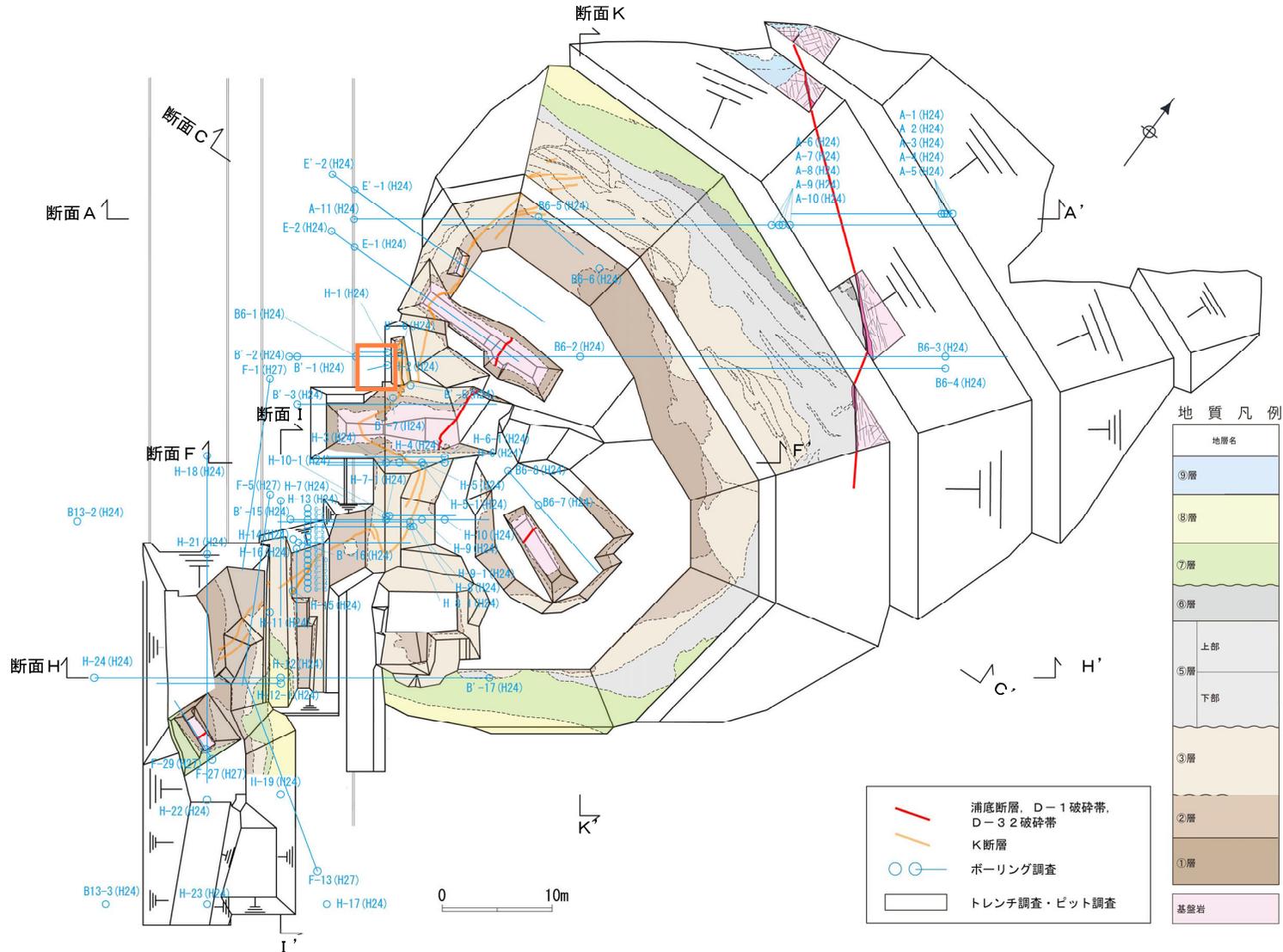
- D-1トレンチにおけるK断層の分布を地質断面図に示した。
- D-1トレンチ内においては、K断層は北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において、連続して認められる(断面K, 断面A, 断面C, 断面F及び断面I)。



K断層の連続性評価について

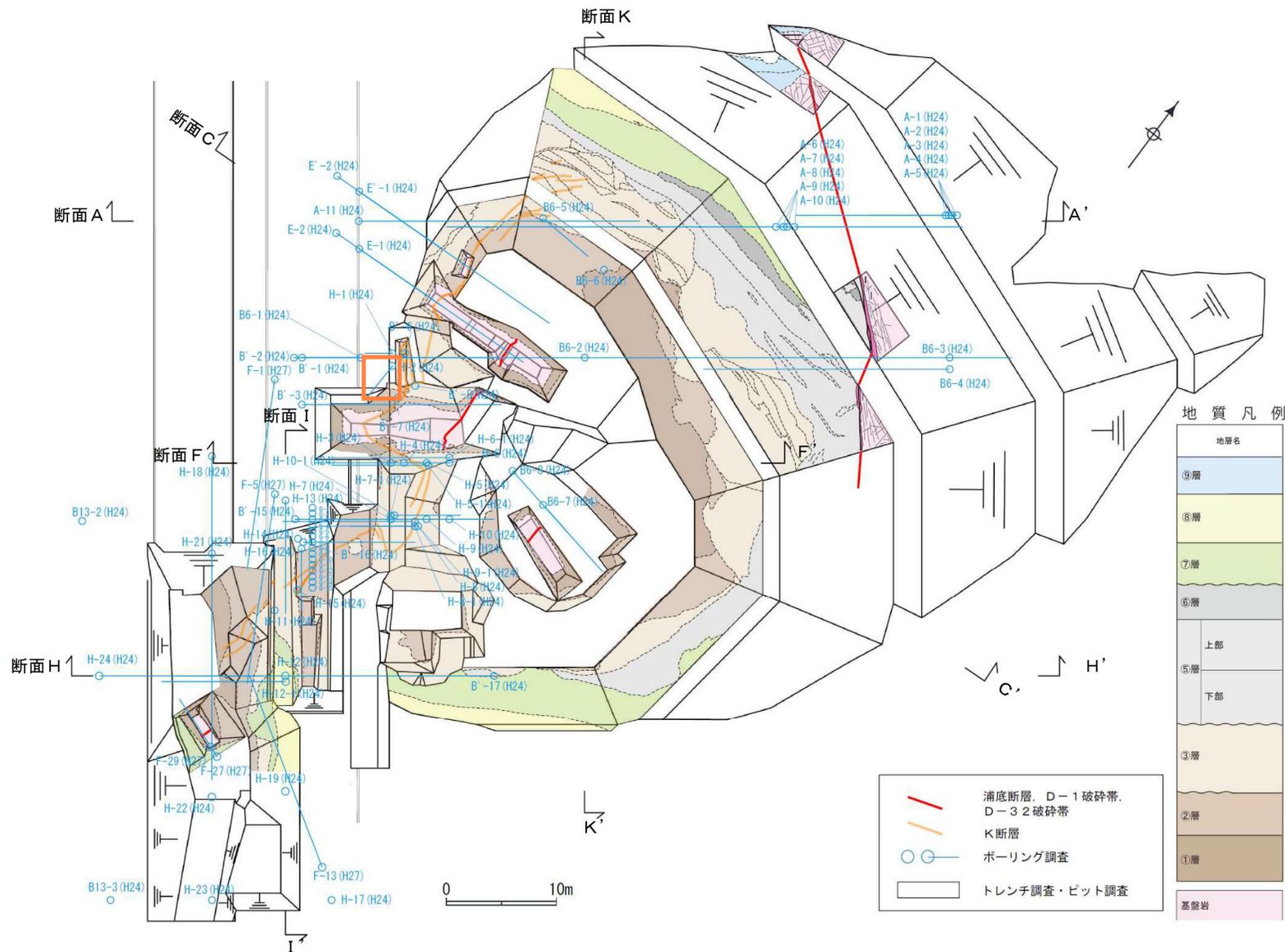
D-1トレンチ断面図(断面位置図)

- D-1トレンチにおけるK断層の分布を地質断面図に示した。
- D-1トレンチ内においては、K断層は北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において、連続して認められる(断面K、断面A、断面C、断面F及び断面I)。

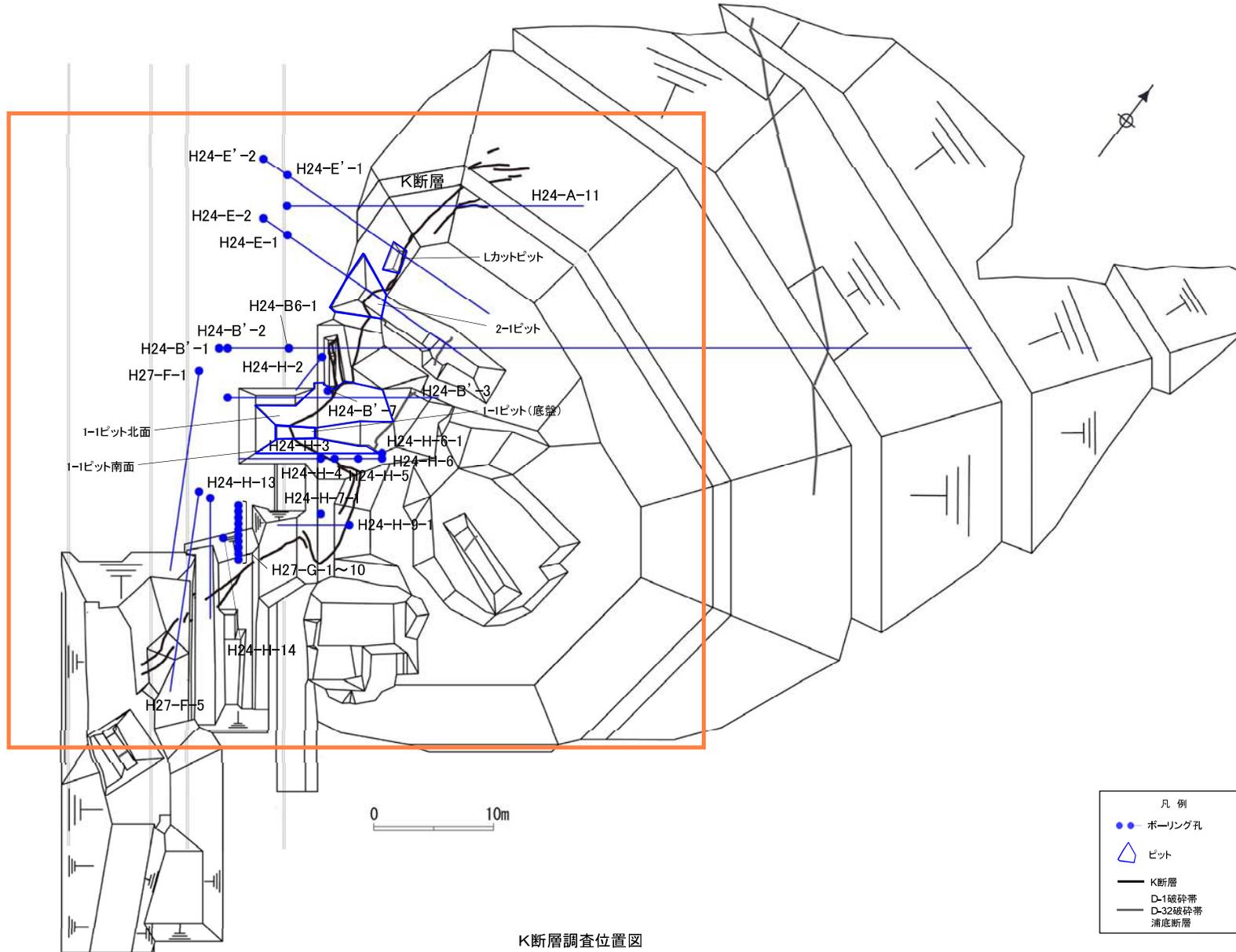


D-1トレンチ断面図(断面位置図)

- D-1トレンチにおけるK断層の分布を地質断面図に示した。
- D-1トレンチ内においては、K断層は北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において、連続して認められる(断面K, 断面A, 断面C, 断面F及び断面I)。



3. K断層
調査位置図

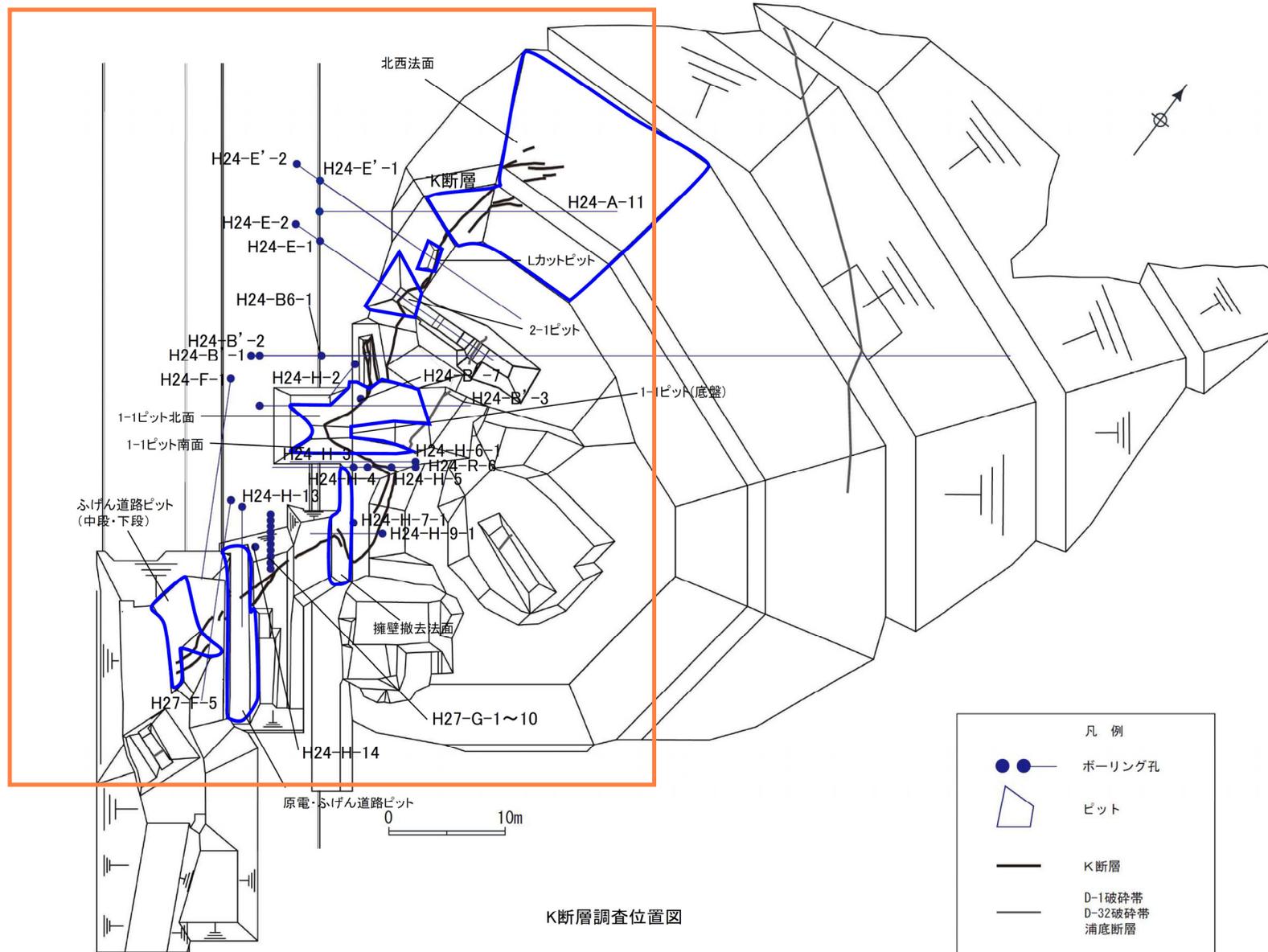


K断層調査位置図

K断層 調査位置図

141: ボーリング位置を修正 (北にずれていたため修正)
 140: 2-1ピット底盤を掘り込み後の形状に修正

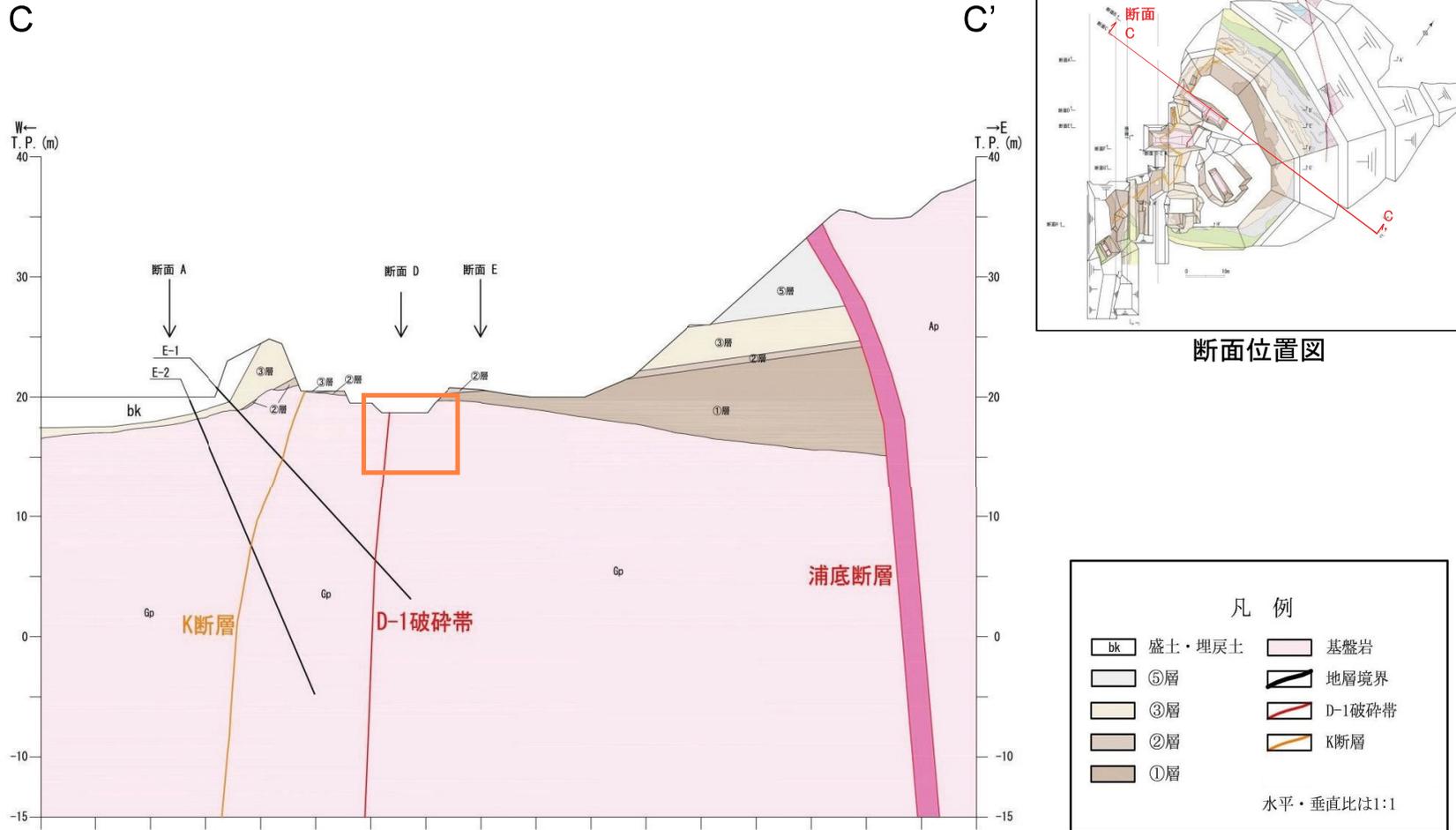
修正後



2.2 (1)D-1破碎帯
D-1トレンチの地質断面図(C-C')

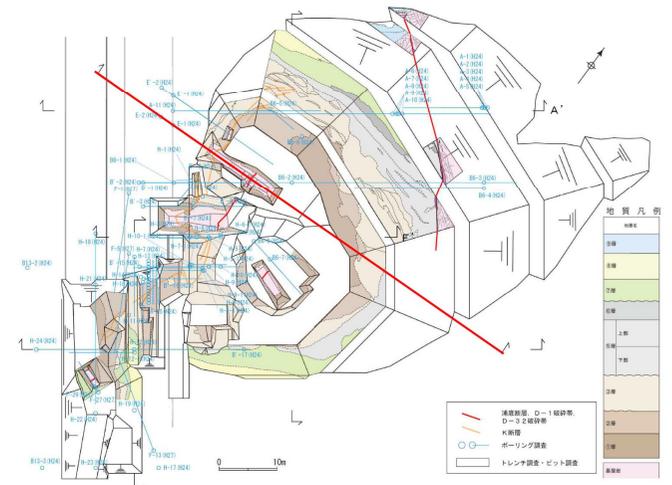
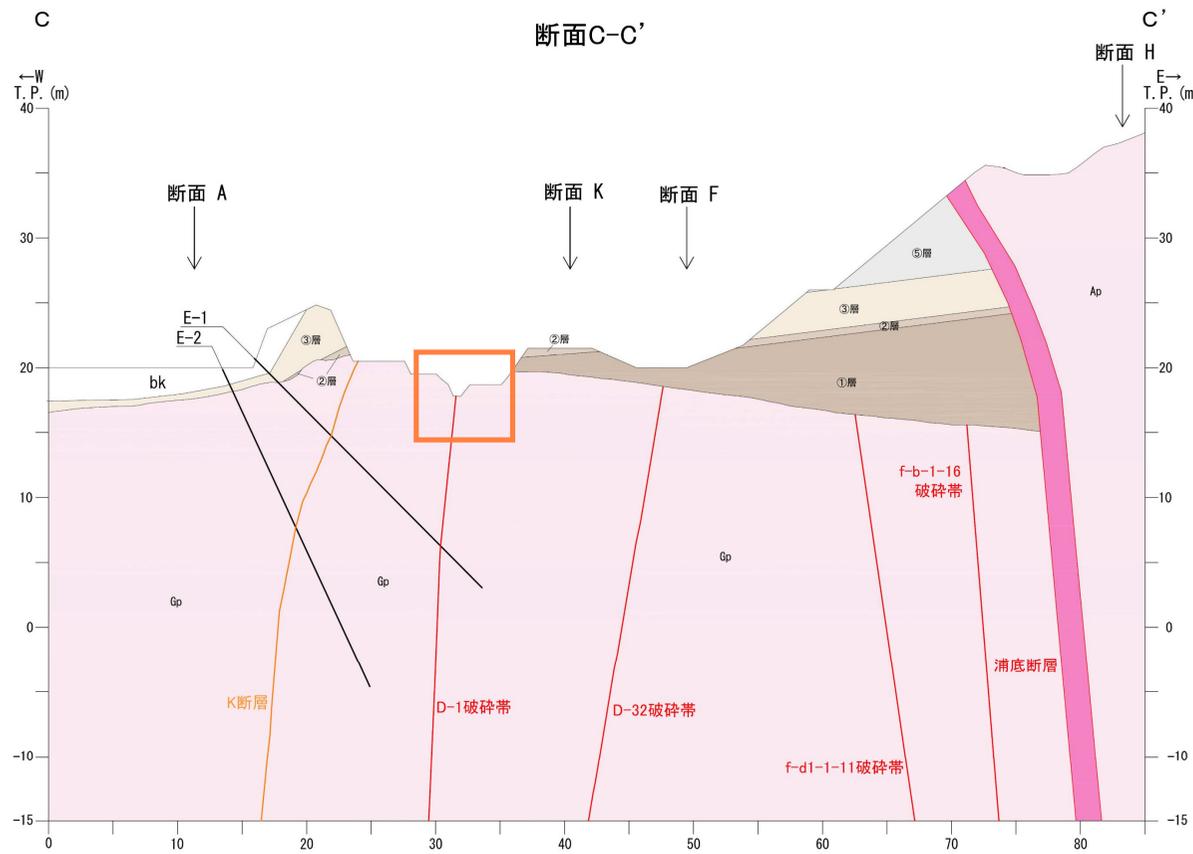
第536回審査会合資料 机上配布資料1
142 (D-1トレンチ断面図 (C-C'))
修正箇所：橙色枠

修正前

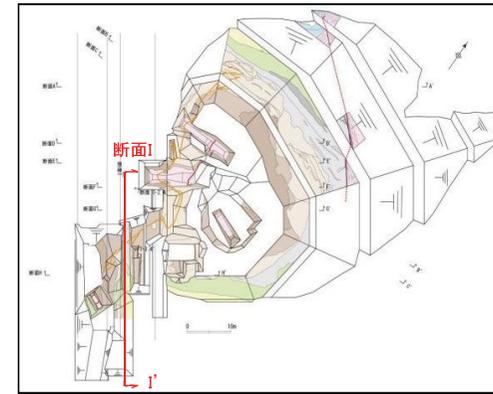
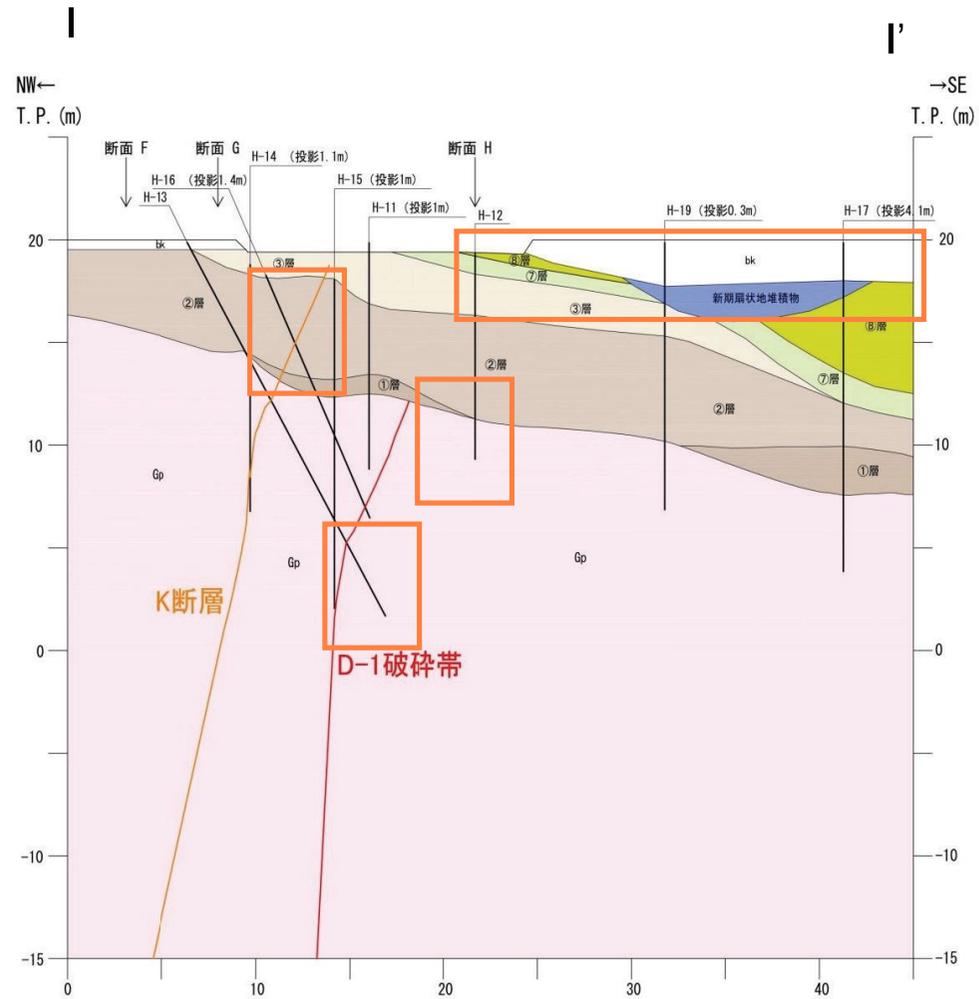


D-1トレンチに分布する地層は、花崗斑岩とそれを覆う第四系からなり、第四系は層相から下位より①層～⑤層に区分した。

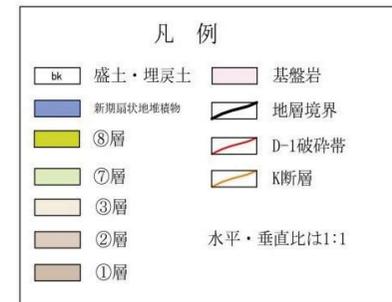
D-1トレンチ断面図(C-C')



2.2 (1)D-1破碎帯
 D-1トレンチの地質断面図(I-I')

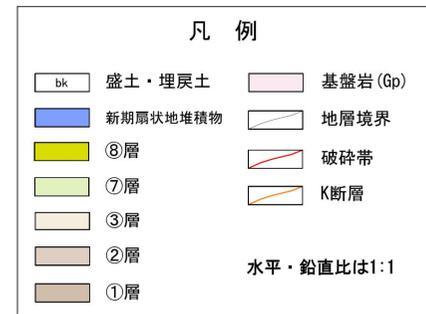
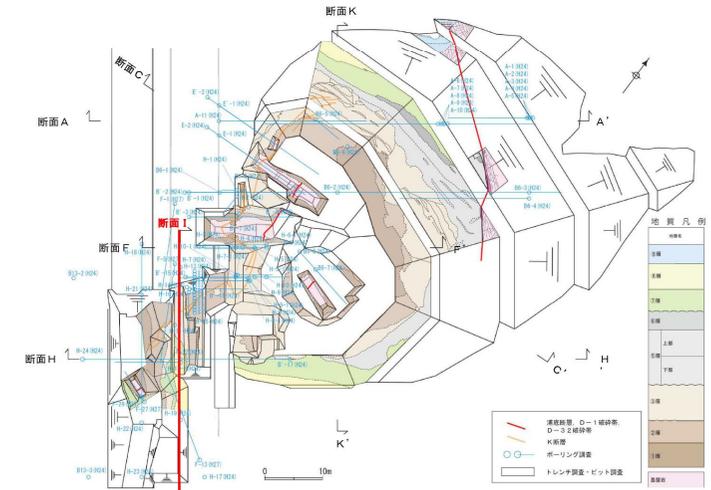
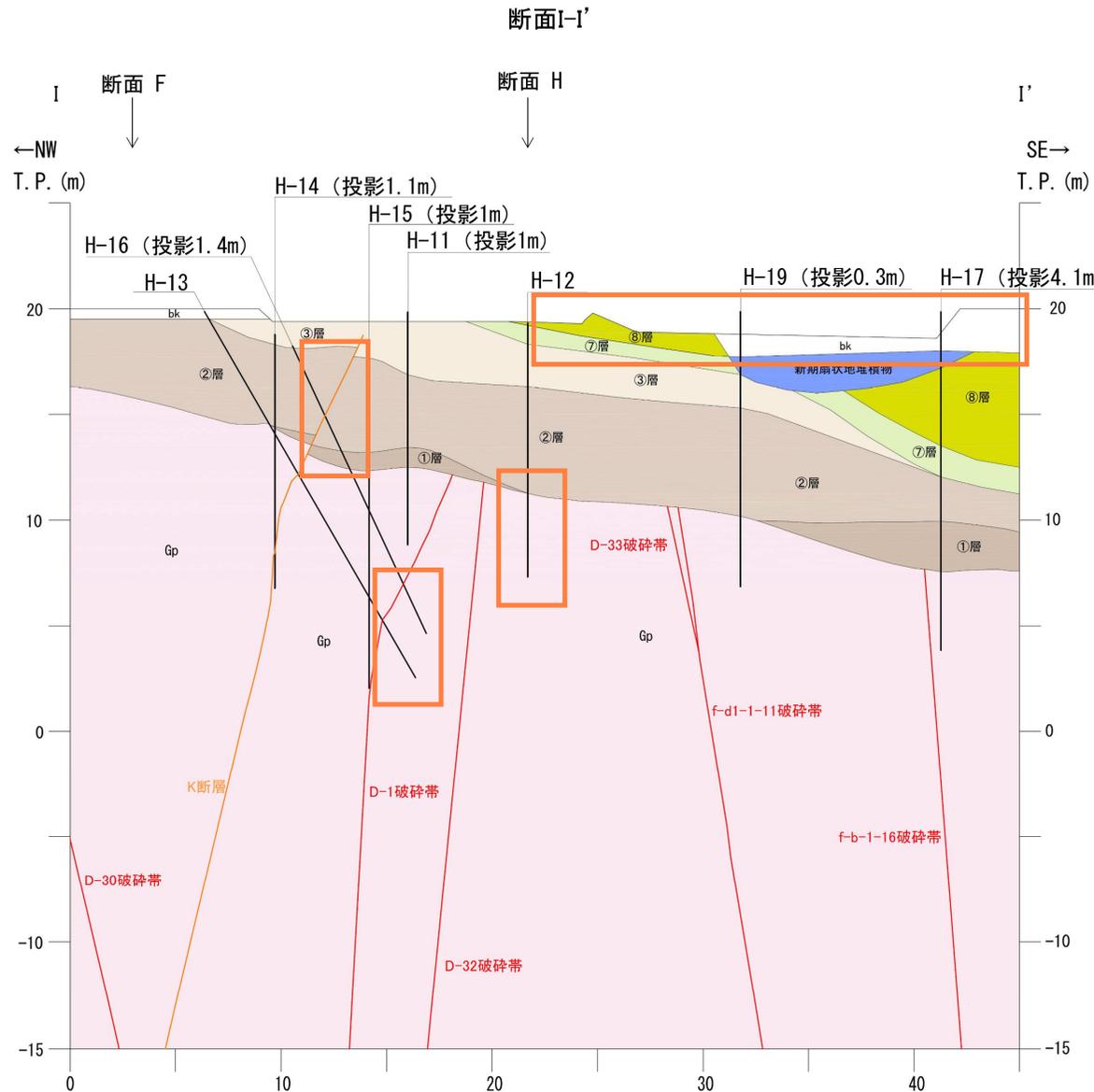


断面位置図



D-1トレンチに分布する地層は、花崗斑岩とそれを覆う第四系からなり、第四系は層相から下位より①層～⑨層に区分した。

D-1トレンチ断面図(I-I')



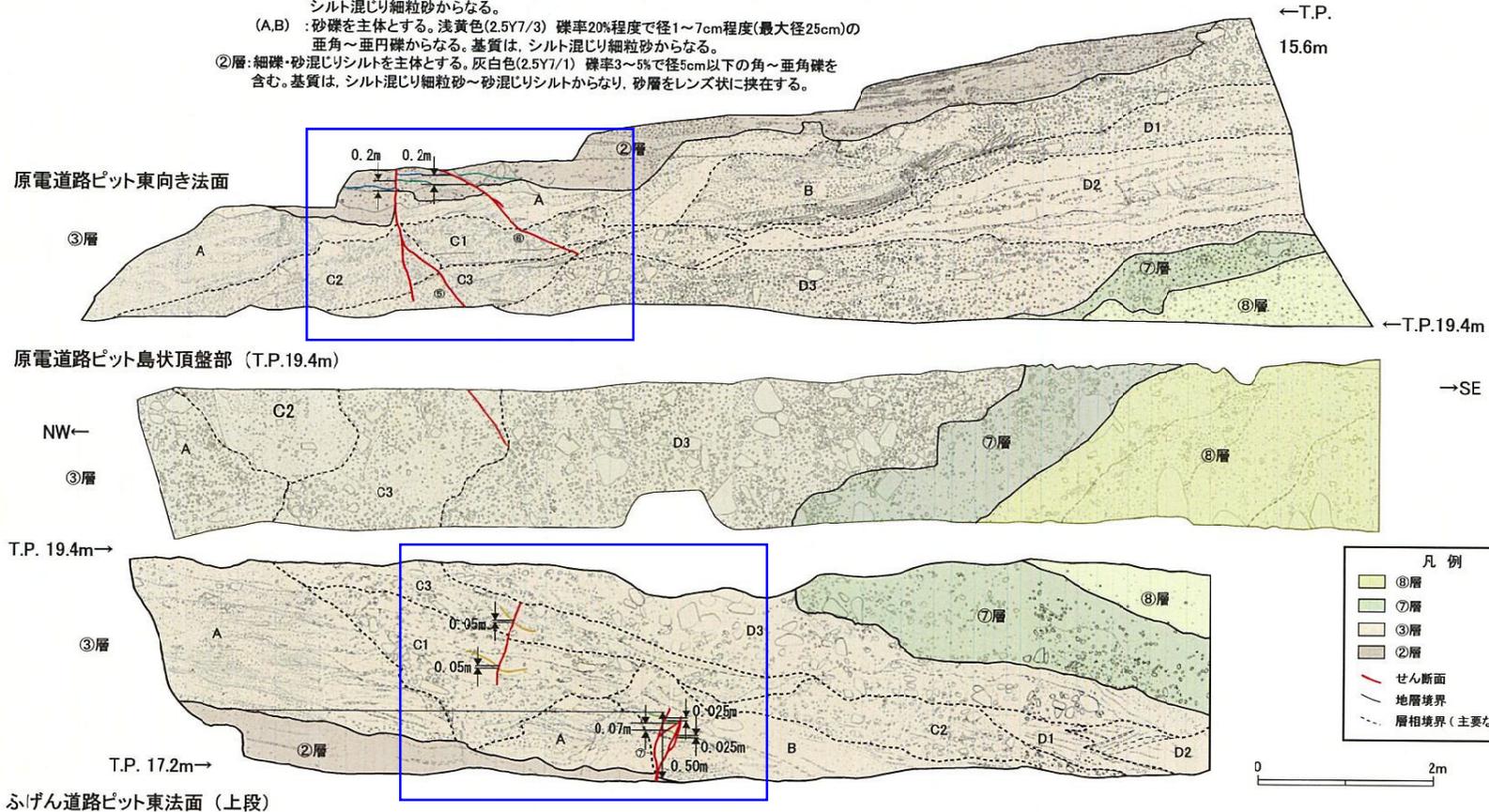
作成日・確認日：2022年3月31日

確認者： XXXXXXXXXX

原電・ふげん道路ピットスケッチ

- ⑧層：細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5YR6/6)。礫率5~10%で、礫は径2~4cm程度の亜角礫を含む。基質は、シルト質細砂からなり、細礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状~層状に挟在する。
- ⑦層：礫混じり砂質シルト~砂礫からなる。明赤褐色(5YR5/6)~橙色(7.5YR7/6) 礫率7~40%程度で径3~40cm程度の亜角~亜円礫からなる。基質は、シルト混じり細~中粒砂からなる。下部ほど礫の含有率が多い。
- ③層 (C,D)：砂礫及びシルト混じり細粒砂を主体とする。橙色~明褐色(7.5YR6/6~7.5YR5/6) 礫率15~40%で径1~10cm程度(最大径40cm)の角~亜円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
(A,B)：砂礫を主体とする。浅黄色(2.5Y7/3) 礫率20%程度で径1~7cm程度(最大径25cm)の亜角~亜円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- ②層：細礫・砂混じりシルトを主体とする。灰白色(2.5Y7/1) 礫率3~5%で径5cm以下の角~亜角礫を含む。基質は、シルト混じり細粒砂~砂混じりシルトからなり、砂層をレンズ状に挟在する。

⑤:f.N9° E74° W
⑥:f.N5° E64° W
⑦:f.N25° E70° E
f: せん断面



東向き法面



2015年10月撮影

島状頂盤



2015年9月撮影

ふげん道路
東法面

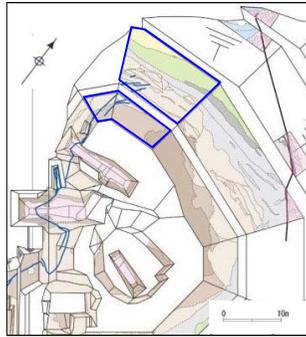


2015年10月撮影

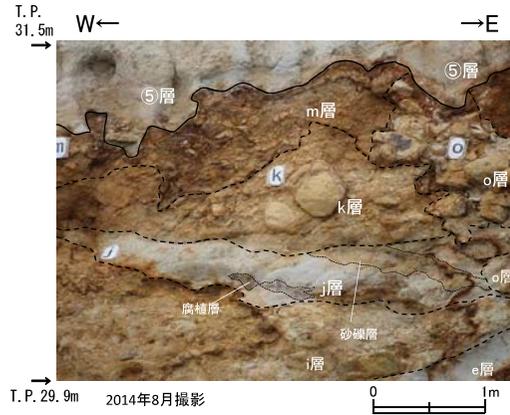
2m

K断層の連続性評価について
K断層の性状(北西法面)

- ・北西法面においてK断層は、③層以下の地層に逆断層変位を与えており、その変位量は90cm程度である。
- ・また、K断層の変位・変形の形態については、下方の地層では変位が、上方では変形が主体となっている。
- ・K断層によって変位・変形を受けている③層上部のj層については、腐植層や砂礫層の層理は東へ傾斜しており、同層基底ではK断層による変位・変形量は60cm以上である。
- ・一方、j層直上のk層については、j層を傾斜不整合関係で覆っており、k層の基底及びk層中の砂層は概ね水平である。
- ・以上のことから、K断層はk層には変位・変形を与えていないと判断される。

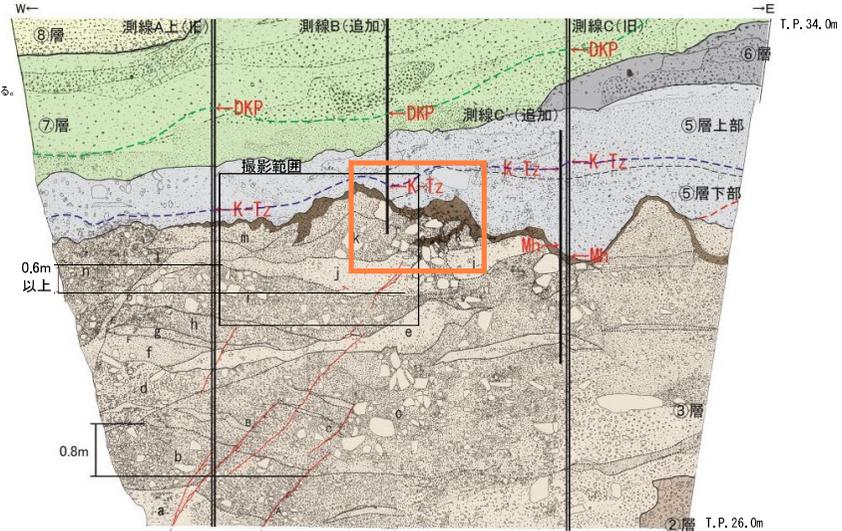


調査位置図

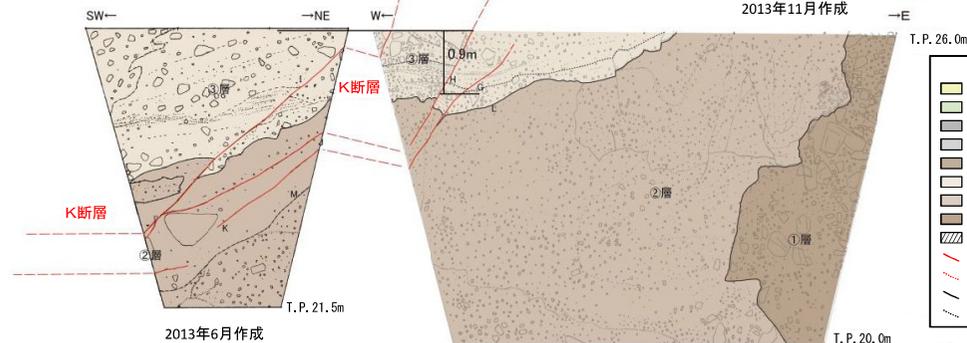


T.P. 29.9m 2014年8月撮影

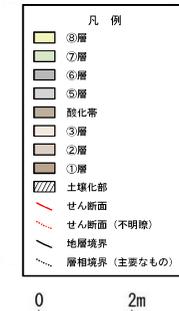
- ⑧層: 砂礫
礫径5cm以下、特に1cm以下の角～亜角礫を主体とし、まれに10cm程度の礫を含む。礫種は新鮮な花崗斑岩、アプライト、石英である。基質はシルト質泥～中粒砂からなり、ゆるい、成層構造(ほぼ水平、一部斜交葉理様)が見られる。
- ⑦層: 硬凝じりシルト質砂～硬凝じり砂質シルト(砂礫を伴う)
橙色～明黄褐色(7.5YR6/6～10YR6/6)、灰色(10Y6/1)を呈する。
- ⑥層: 腐植質砂質シルト～シルト質砂(一部に砂礫を伴う)
木片を多数含む。
- ⑤層: 砂礫主体(硬凝じりシルト質砂～硬凝じり砂質シルト層を伴う)
大局的には上方縮進化の傾向を示す。
黄灰色～明オリブ灰色(2.5Y6/1～2.5GY7/1)を呈する。
酸化帯: ③層と⑤層の境界面付近に多い。
- ③層: 砂礫
主に20cm以下(まれに50cm大)の角～亜角礫を含む。
礫種は花崗斑岩、花崗岩である。淘汰は極めて悪い。
基質は細～粗粒砂で、締まりは良好である。一部レンズ状に砂礫を挟む。
にぶい橙色～褐色(7.5YR7/3～7.5YR6/6)を呈する。
K断層近辺の砂礫層は、傾斜を示す。
- ②層: 硬凝じりシルト
礫径0.2～30cm(まれに50cm以上)で、垂角～角礫を含む。
礫種はアプライト、粗粒花崗岩からなる。礫径10～20%である。
にぶい橙色～明青灰色(5YR6/4～10B7/1)を呈する。
- ①層: 砂礫
礫径0.5～30cm(最大100cm以上)で、垂角～角礫を含む。
礫種は花崗斑岩、粗粒花崗岩、アプライト、石英である。淘汰は悪い。
基質は砂質シルトで、締まりは良好である。
黄褐色(10YR5/6)を呈する。



2013年11月作成



2013年6月作成



- A: せん断面: N25° E58° W
- B: せん断面: N20° E63° W
- C: せん断面: N22° E57° W
- D: 層理面 (チャネル壁): N87° W42° S
- E: 層理面 (チャネル壁): N33° W46° W
- F: 層理面 (堆積構造): N69° E16° S
- G: せん断面: N41° E60° NW
見かけ15cm変位 (逆断層)
- H: せん断面: N33° E72° NW
見かけ10cm変位 (逆断層)
- I: せん断面: N11° W64° W
- J: せん断面: N9° W44° W
- K: せん断面: N13° E48° NW
- L: 層理面 (②層③層境界): N47° W20° SW
- M: 層理面: N19° E56° NW

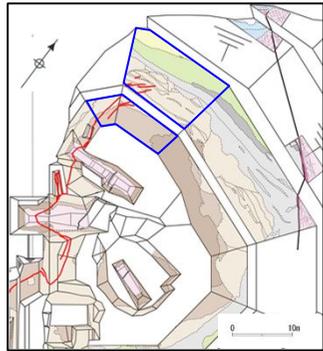
2013年6月作成

北西法面 スケッチ

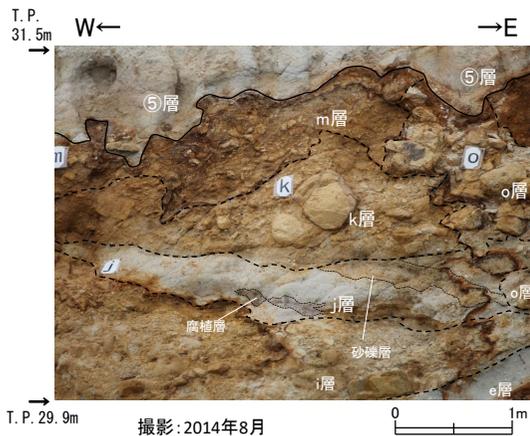
K断層の性状(北西法面) 146, 147: 最新版に修正 (土壌化範囲の観察結果の反映もれを修正)

②層の色調修正

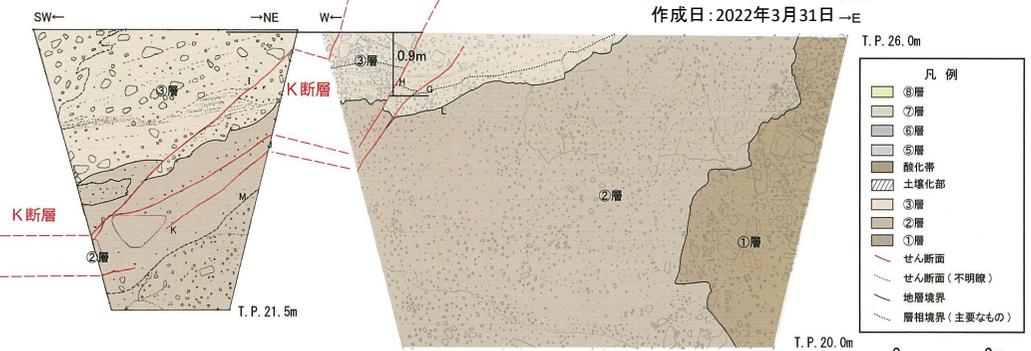
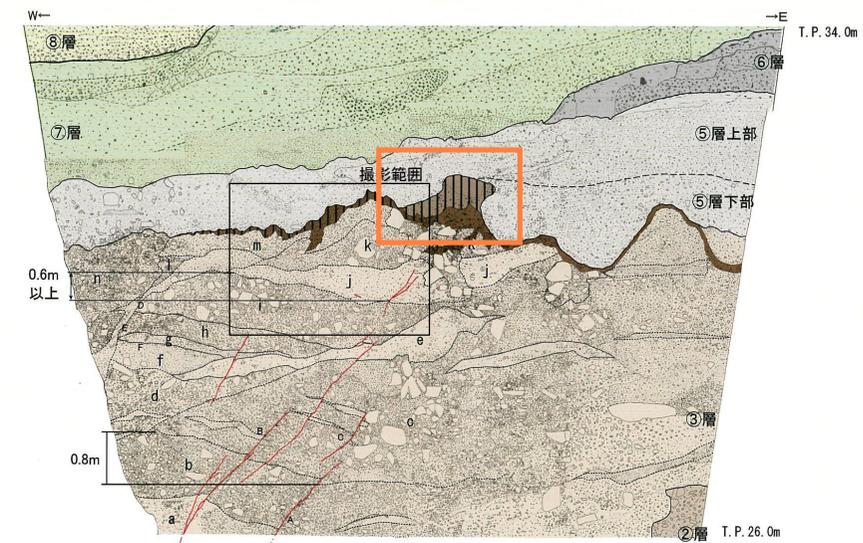
- 北西法面のスケッチを以下に示す。
- 北西法面においてK断層は、③層以下の地層に逆断層変位を与えており、その変位量は90cm程度である。
- また、K断層の変位・変形の形態については、下方の地層では変位が、上方では変形が主体となっている。
- K断層によって変位・変形を受けている③層上部のj層については、腐植層や砂礫層の層理は東へ傾斜しており、同層基底ではK断層による変位・変形量は60cm以上である。
- 一方、j層直上のk層については、j層を傾斜不整合関係で覆っており、k層の基底及びk層中の砂層は概ね水平である。
- 以上のことから、K断層はk層には変位・変形を与えていないと判断される。



調査位置図



- ⑧層: 砂礫
礫径5cm以下、特に1cm以下の角～歪角礫を主体とし、まれに10cm程度の礫を含む。礫種は新鮮な花崗閃岩、アブライト、石英である。基質はシルト質細～中粒砂からなり、ゆるい。成層構造(ほぼ水平、一部斜交層理)が見られる。
褐(7.5YR4/4)、黄緑(7.5YR7/8)を呈する。
- ⑦層: 礫混じりシルト質砂～礫混じり砂質シルト(砂礫を伴う)
褐色～明黄褐色(7.5YR6/4～10YR5/6)、灰色(10Y6/1)を呈する。
- ⑥層: 腐植質砂質シルト～シルト質砂(一部に砂礫を伴う)
穴片を多数含む。
暗灰(N5/2)、灰(10Y6/1)を呈する。
- ⑤層: 砂礫主体(礫混じりシルト質砂～礫混じり砂質シルト層を伴う)
礫は径0.5～20cmの角～歪角礫を呈する。
大局的には上方細粒化の傾向を示す。
黄灰色～明オリーブ灰色(2.5Y6/1～2.5Y6/1)を呈する。
酸化帯: ②層と③層の境界面付近に多い。
- ④層: 砂礫
主に20cm以下(まれに50cm大)の角～歪角礫を含む。
礫種は花崗閃岩、花崗岩である。淘汰は極めて悪い。
基質は細～粗粒砂で、締まりは良好である。一部レンズ状に砂層を挟む。
にふい橙色～棕色(7.5YR7/3～7.5YR6/6)を呈する。
K断層近辺の砂礫層は、構造を示す。
- ③層: 礫混じりシルト
礫径0.2～20cm(まれに50cm以上)で、歪角～角礫を含む。
礫種はアブライト、粗粒花崗岩からなり、厚さ10～20%である。
にふい橙色～明黄灰色(5YR6/4～10B6/1)を呈する。
- ②層: 砂礫
礫径0.5～30cm(最大100cm以上)で、歪角～角礫を含む。
礫種は花崗閃岩、粗粒花崗岩、アブライト、石英である。淘汰は悪い。
基質は砂質シルトで、締まりは良好である。
黄褐色(10YR5/8)を呈する。



作成日: 2022年3月31日

北西法面 スケッチ

- A: せん断面: N25° E58° W
- B: せん断面: N20° E63° W
- C: せん断面: N22° E57° W
- D: 層理面(チャネル壁): N87° W42° S
- E: 層理面(チャネル壁): N33° W46° W
- F: 層理面(堆積構造): N69° E16° S
- G: せん断面: N41° E60° NW
見かけ15cm変位(逆断層)
- H: せん断面: N33° E72° NW
見かけ10cm変位(逆断層)
- I: せん断面: N11° W64° W
- J: せん断面: N0° W44° W
- K: せん断面: N13° E48° NW
- L: 層理面(②層③層境界): N47° W20° SW
- M: 層理面: N19° E56° NW

作成日: 2022年3月31日

青枠：土壌化した範囲に関する部分

スケッチ名D-1トレンチ 北西法面 1/20 右(2/2) スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

スケッチ

①層：砂礫質シルト質砂
 風化して土壌化している。
 上位の②層上部、③層とは、④層が遠くまで、
 ①層が酸化色で風化が土壌化が遠くまで、
 干拓不整面9年でもおこる。
 標 (7.5YR 6/6), 明灰褐 (10YR 6/6), 灰 (10Y 6/1)

②層上部：シルト質砂礫 ~ シルト質砂
 礫中 15 ~ 20%
 花崗岩、花崗岩の角、亜角礫
 径 100mm 以下の礫を含む。
 基質はシルト質細粒砂質土。
 腐植質シルト ~ 腐植質を含むシルト質土。
 シェット状に多量。
 上部は白く、下部は暗く風化している。
 面状に狭く傾斜している。
 黄灰 (2.5Y 6/1), 明黄灰 (2.5Y 7/1)

O: 砂礫
 礫中 50 ~ 60%
 花崗岩、花崗岩の角、亜角礫。
 径 100 ~ 200mm の礫主体。最大 500mm の礫を含む。
 基質はシルト質細粒砂質土。
 塊状に多量に存在し、上部は酸化灰褐色、下部は土壌化している。
 傾斜が長い。
 下部の砂層 (C.F. J. 層) を示す。傾斜が長い。干拓不整面がある。
 灰白 (7.5Y 8/2)

J: 砂礫質シルト質砂
 花崗岩、花崗岩の角、亜角礫、径 50 ~ 100mm の礫を含む。
 上部は酸化灰褐色。傾斜が長い。
 面状に多量に存在する。
 O層に示す傾斜が長い。
 灰白 (7.5Y 8/2), 灰白 (7.5Y 8/2)

S-1: 土断簡

C: 砂礫
 礫中 25 ~ 50%
 花崗岩、花崗岩の角、亜角礫。径 50 ~ 200mm の礫主体。最大 400mm の礫を含む。
 基質は細粒砂質土。塊状に多量に存在し、傾斜が長い。
 シェット状に多量 (7.5Y 7/3)

資料の確認の手順で確認済みの露頭観察面の写真を基に本図をスケッチ原図の初版とした。
 2022年3月28日 確認者: [REDACTED]



④層：腐植質砂質シルト
 礫が多量を含む。 暗灰 (N3/1)

⑤層下部：シルト質砂礫 ~ シルト質砂
 礫中 15 ~ 20%
 花崗岩、花崗岩の角、亜角礫
 径 100mm 以下の礫を含む。
 基質はシルト質細粒砂質土。
 下部のO層、J層、S-1層、C層の上部に
 土壌化が認められる。
 不整面9年でもおこる。
 黄灰 (2.5Y 6/1), 明黄灰 (2.5Y 7/1)

K: シルト質砂礫
 礫中 20 ~ 50%
 花崗岩、花崗岩の角、亜角礫
 径 50 ~ 200mm の礫主体。最大 500mm の礫を含む。
 基質はシルト質細粒砂質土。
 塊状に多量に存在し、傾斜が長い。
 上部は酸化灰褐色、一部は土壌化している。
 傾斜が長い。 (7.5Y 7/3)

酸化帯

C: 砂礫
 礫中 15%
 花崗岩、花崗岩の角、亜角礫。
 径 20 ~ 100mm の礫主体。
 基質は細粒砂質土。
 塊状に多量に存在し、傾斜が長い。
 シェット状に多量 (2.5Y 6/4), 灰白 (7.5Y 8/2)
 暗灰 (N3/1)

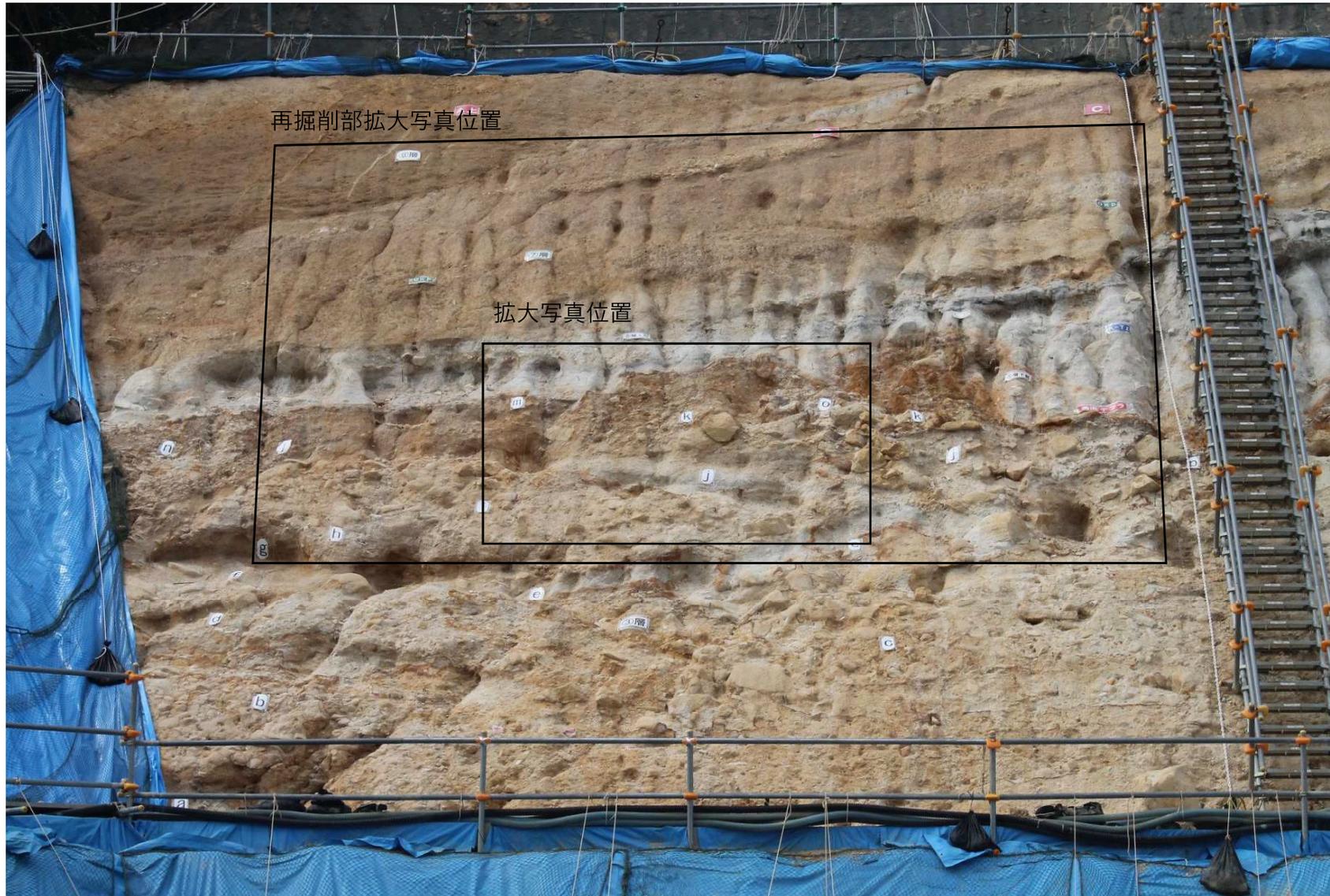
D-1 トレンチ 北西法面 1/20 右(2/2)

法面勾配 45°

D-1トレンチ北西面写真

146 (スケッチ) のエビデンス (3/10)

2014年6月撮影



スケッチ名D-1トレンチ 北西法面 1/20 東側下段 スケッチ

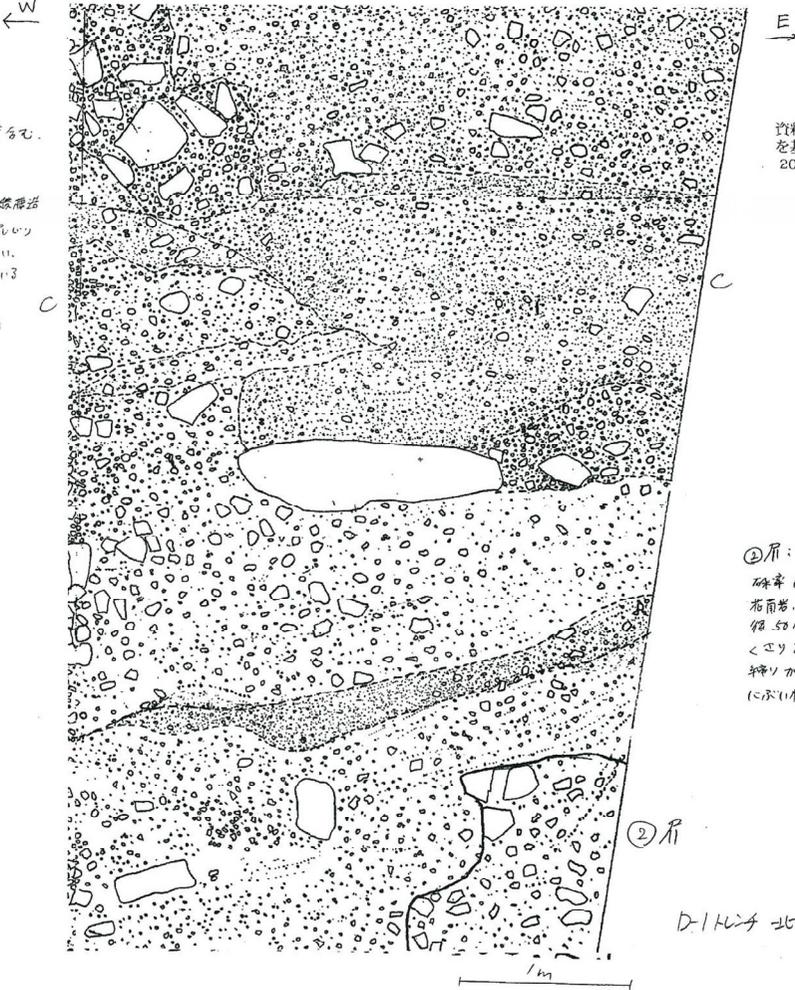
スケッチ原図に以下の情報が書かれているか

- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位, スケール(または, グリッドの間隔)

○

スケッチ

C: 砂礫
 礫率 15~50%
 花崗岩, 花崗斑岩の角~亜角礫
 径 2~50mm の礫主体, 最大 1500mm の礫あり
 基質は細~粗粒砂からなる
 均一な砂質ではない
 レンズ状の礫層を形成する, 一部に堆積層が
 加えられる, 径 200~500mm の礫のシルト化
 礫層がハッチ状に分布する, 傾斜が大きい
 下位の②層との境界は緩衝に入り込んでいる
 ため不整合関係であると考えられる
 (濃い褐色 (2.5YR 6/4), 灰白 (7.5YR 8/6))
 暗黒 (N3/1)



資料の確認の手順で確認済みの遠頭観察面の写真を
 を基に本図をスケッチ原図の初版とした。
 2022年3月28日 確認者: [Redacted]

②層: 石灰質シルト
 礫率 10~20%
 花崗岩, 花崗斑岩の角~亜角礫
 径 50~200mm の礫を多く含む
 傾斜が大きい
 (濃い褐色 (5YR 6/4), 灰白 (7.5YR 8/6))

D-1 トレンチ 北西法面 1/20 東側下段
 法面勾配 45°

147 (スケッチ) のエビデンス (5/10)

2022
作成日 3/28 作成者 [redacted] 確認者 [redacted] 確認日 2022. 3. 28

スケッチ名 D-1トレンチ 北西法面 1/20 東側下段_記事		スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(高層部)						
No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	地質の特徴										風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・地盤中の高低の割れ目開隔、割れ目間の存在物の種類と幅及び色調、充填物の性状や割れ目の走向・傾斜、観察、充填などを記載	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所を測定するようにし、局所的に凹凸や高さが変化している箇所では測定しない。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由		
			地質名	・粘着構造、礫の埋没、礫の形状、礫の埋没、礫の埋没、礫の埋没	・細粒の風化	・含有物、内包、貫入など	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況の存在、丸ば、それらについて記載	地層境界 ・地層境界の整合、不整合関係が認定できる場合は、その位置も併せて記載	・埋理、埋理、線化など	土壌化など、堆積環境、時間関係を示すもの	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所を測定するようにし、局所的に凹凸や高さが変化している箇所では測定しない。	地質名					色調	
	砂礫 標準 15~50% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪角礫、径2~50mmの礫主体。 最大150mmの礫を含む。 基質は細~粗粒砂からなる。 混成は極めて悪い。 c レンズ状の砂層を挟む。また、一部に堆積構造が見られる。 径200~500mmの礫主体のシルト混じり砂層がハチ字状に分布する。 傾りが良い。 下位の2層との境界は明確に入り込んでいるため不整合関係であると考えられる。 にぶい褐色 (SYR8/4) 灰白 (7.5YR8/2) 緑灰 (10G/7)																	
	礫混じり砂質シルト 標準 10~20% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪角礫、径50~200mmの礫を含む。 c (a) 礫を多く含む。 層 傾りが良い。 にぶい褐色 (SYR8/4) 灰白 (7.5YR8/2)																	
No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										条線	実位・変形量 ・変形量に応じて計測した変位・変形量	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所を測定する。あるいは、正交せん断面について傾斜角を測定する。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由		
			破砕帯区分 (H&H法)	破砕部の性状 ・破砕部の種類 ・破砕部内物質 ・埋理 ・埋理部の埋理性・連続性 ・埋理組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・埋理構造、埋合構造、貫入構造、網目状など	断面区分 ・断面方向・断面 角線・カスケードサイ fに該当し記載	破砕程度 (実測できる場合)	最新活動面 (認定した場合)										

スケッチ名D-1トレンチ 北西法面 1/50 下段(1/2) スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか

- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位、スケール(または、グリッドの間隔)

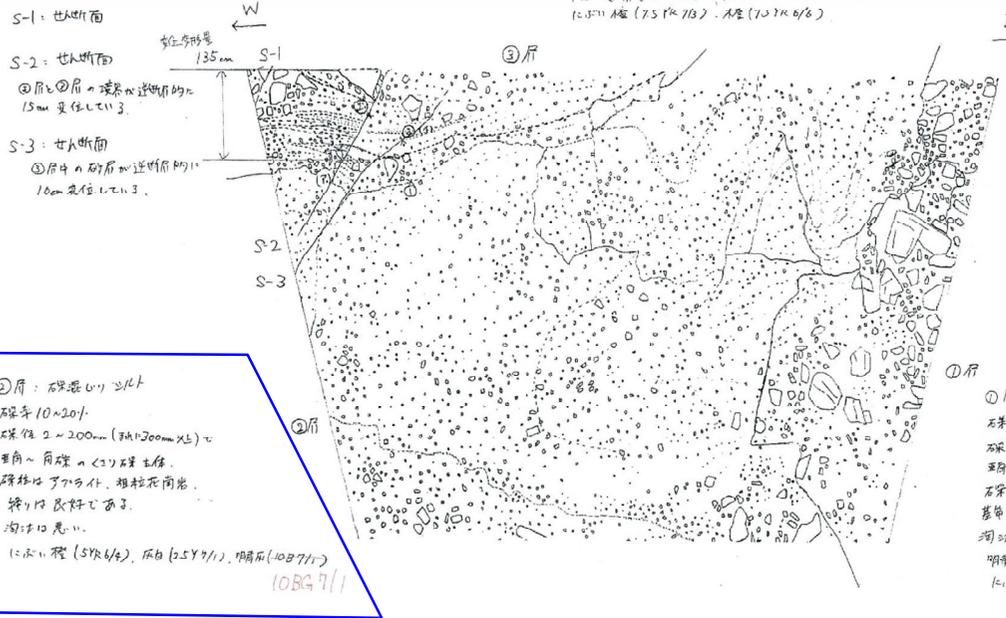
○

スケッチ

走向・傾斜・変位量

- ① b. N40W / 20SW
- ② f. N40E / 72NW (P) 厚44 / 10m 変位 (逆)
- ③ f. N48E / 60NW (P) 厚115m 変位 (逆)

①層: 砂礫
 礫径 10~20f. 主に礫径 200mm 以下で 粗円~角礫を含む。
 礫種は花崗岩、花崗岩。
 基質は細~粗粒砂で 粘り気あり。
 淘洗は悪い。砂がシルト層に交代した部分、一部に堆積物が見える。
 下位の②層とは、③層も角り辺で堆積していることから不整合面と見なされる
 1:500 概 (7.5 fR / 6), 1:500 概 (7.0 fR / 6)



作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]

2m
 法面勾配 45~60°

D-1トレンチ 北西法面 1/50 下段(1/2)

青枠：②層の色調に関する部分

作成日 2022/3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

No.	スケッチ名D-1トレンチ 北西法面 1/50 下段(1/2)_記事	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ基調(第四系)										スケッチ基調(基盤岩)			記事・スケッチを削除・変更・追記した理由			
				地質名	地質の特徴	地層構成	地層構造	地層境界	土壌化など	走向・傾斜	地質名	風化・変質	色調	走向・傾斜						
		砂礫 礫率20~40% 礫径5~300mm(最大1000mm以上)で、歪角~角礫のくさり礫が主体。 礫層は花崗岩質、粗粒花崗岩、アングラ、石英。 基質は砂質シルトで締まりは良好である。 海法は悪い。 明黄泥(10YR6/8) 黄緑(10YR5/8) に少し赤褐色(YR5/4)	-																	
		硬質シルト 礫率10~20% 礫径2~200mm(まれに300mm以上)で、歪角~角礫のくさり礫主体。 礫層はアングラ、粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 海法は悪い。 に少し黄(10YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明黄泥(10B7/1)	硬質シルト 礫率10~20% 礫径2~200mm(まれに300mm以上)で、歪角~角礫のくさり礫主体。 礫層はアングラ、粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 海法は悪い。 に少し黄(10YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明黄泥(10B7/1)																色調(明黄泥)と、色調を示す記号(10B7/1)が整合していない。法定有黄を参照。色調(明黄泥)の正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。	
		砂礫 礫率10~20% 主に礫径200mm以下で、歪角~角礫を含む。 礫層は花崗岩質、花崗岩。 基質は細~粗粒砂で締まりは良好である。 海法は悪い。 砂やシルトの層をレンズ状に挟み、一部に薄層構造が見られる。 下位の基盤とは、空層を削り込んで埋積していることから垂直面関係と考える。 に少し黄(7.5YR7/3) 黄(7.5YR6/8)	-																	
①	b.N40W/20SW																			

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由							
			破砕帯区分 (Hc/Hs)	破砕部の性状	内部構造	断層帯区分	破砕帯	最新活動	条線	変位・変形量	走向・傾斜	走向・傾斜								
②	f.N40E/72NW見かけ10cm変位(証)	-																		
③	f.N48E/60NW見かけ15cm変位(証)	-																		
S-1	せん断面	-																		
S-2	せん断面 2層と3層の境界が近断層約に15cm変位している。	-																		
S-3	せん断面 3層中の砂層が近断層約に10cm変位している。	-																		

スケッチ名 D-1トレンチ 北西法面 1/50 下段(2/2) スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ

②層：砂礫

礫径 10 ~ 20%
 主に礫径 300mm 以下で、亜角~亜円礫が主。
 礫径は花崗岩、花崗岩。
 基質は粗~相粒砂で粘りのある。
 淘洗は悪い。
 砂層を挟み、一部に堆積層が認められる。
 下位の①層と約 20cm で連続しているが、
 不整合面と見られる。
 1: 赤い砂 (75YR 7/2) . 2: 灰 (7.5YR 6/4)

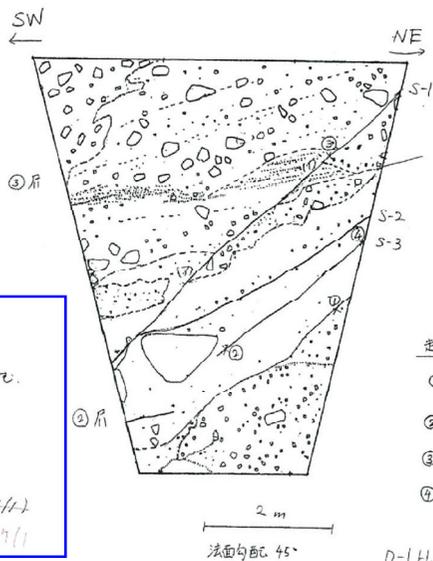
②層：礫混じりシルト

礫径 10 ~ 15%
 礫径 2 ~ 300mm (約 500mm 以上) の亜角~角礫のシルトが主。
 下部は礫が多くなる。
 礫径は 75YR 7/2、相粒花崗岩。
 粘りは良好である。
 淘洗は悪い。
 1: 赤い砂 (5YR 6/4) . 灰白 (2.5Y 7/1) . 明青灰 (10B 7/4-2
 10B 7/1)

変位量

(7) 20cm

(1) 10cm



S-1: 土断
 ②層と①層の境界は、堆積物的に 20cm 変位している。
 ②層中の砂層が連続層の約 10cm 変位している。

S-2: 土断
 下端で S-1 と連続

S-3: 土断

方位・傾斜

① b. N26E / 56NW

② f. N20E / 48NW

③ f. N4W / 64W

④ f. N2W / 44W

D-1HL24 北西法面 1/50 下段 (2/2)

作成日・確認日: 2022年3月28日

確認者: [REDACTED]

147 (スケッチ) のエビデンス (10/10)

スケッチ原因⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 北西法面_②層の記載)

No.	スケッチ原因		報告書スケッチの記事	スケッチ原因(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原因(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原因から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	
スケッチ原因東側下段	礫混じり砂質シルト 礫率10~20%。 花崗岩、花崗斑岩の角~亜角礫、径50~200mmの礫を含む。 くさり礫を多く含む。 締まりが良い。 にぶい橙色(5YR6/4) 灰白(7.5YR8/2)			
北西法面下段(1/スケッチ原因下)	礫混じりシルト 礫率10~20% 礫径2~200mm(まれに300mm以上)で、亜角~角礫のくさり礫主体。 礫種はアブライト、粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10B7/1)	礫混じりシルト 礫率10~20% 礫径2~200mm(まれに300mm以上)で、亜角~角礫のくさり礫主体。 礫種はアブライト、粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10B7/1)	②層: 礫混じりシルト 礫径0.2~30cm(まれに50cm以上)で、亜角~角礫を含む。 礫種はアブライト、粗粒花崗岩からなる。礫率10~20%である。 にぶい橙色~明青灰色(5YR6/4~10BG7/1)を呈する。	・地層名は③層で最も広く分布する砂礫とした。 ・礫径は一部の砂礫を除けば概ね20cm以下である。また最大礫径も50cm程度の箇所が最も多い。 ・色調は、上段・下段で共通して確認された色調とした。また局所的な色調は不採用とした。
北西法面下段(2/スケッチ原因下)	礫混じりシルト 礫率10~15% 礫径2~300mm(まれに500mm以上)で、亜角~角礫のくさり礫を含む。 下部は礫を多く含む。 礫種はアブライト、粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10B7/1)	礫混じりシルト 礫率10~15% 礫径2~300mm(まれに500mm以上)で、亜角~角礫のくさり礫を含む。 下部は礫を多く含む。 礫種はアブライト、粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10B7/1)		

K断層の性状(1-1ピット北面)

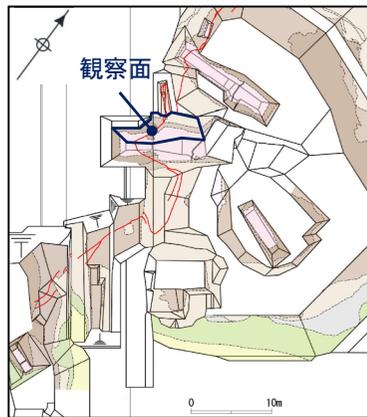
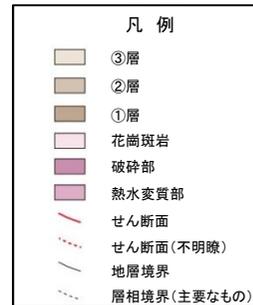
149 (D-1トレンチ1-1ピット北面) 修正箇所：橙色枠

- 1-1ピット北面のスケッチを以下に示す。
- 1-1ピット北面では、K断層は基盤岩から堆積物(③層)までを逆断層的に変位させている。
- 基盤岩中では、K断層はN-S走向で高角度西傾斜である。最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果、縦ずれ成分が卓越する。

- ③層：砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR8/3)。礫率20~40%で径10cm以下の亜角礫からなる。淘汰は良い。基質は中~粗粒砂からなり、一部、細砂及びシルトからなり、細礫を含み、葉理が発達する。
- ②層：シルト質砂礫を主体とする。にぶい橙色(5YR7/4)。礫率15~25%で径10~70cm程度の角~亜角礫からなる。基質はシルト及び中~細粒砂からなる。上部には砂礫混じりシルトが分布し、主に粘土、シルト、細粒砂からなる。また、下部の一部には、シルト質砂礫が分布している。
- ①層：砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR7/3)。礫率30~60%で径30cm以下(最大径50cm)の亜角礫からなる。淘汰は極めて悪い。基質は中~極粗粒砂からなる。
- Gp：花崗斑岩：浅黄橙色(7.5YR8/4)。全体に風化を受け、一部、土砂状を呈する。また、断層周辺部では、花崗斑岩質カタクレサイトが分布し、礫状及びシルト質砂状を呈する。全体的に変質している。

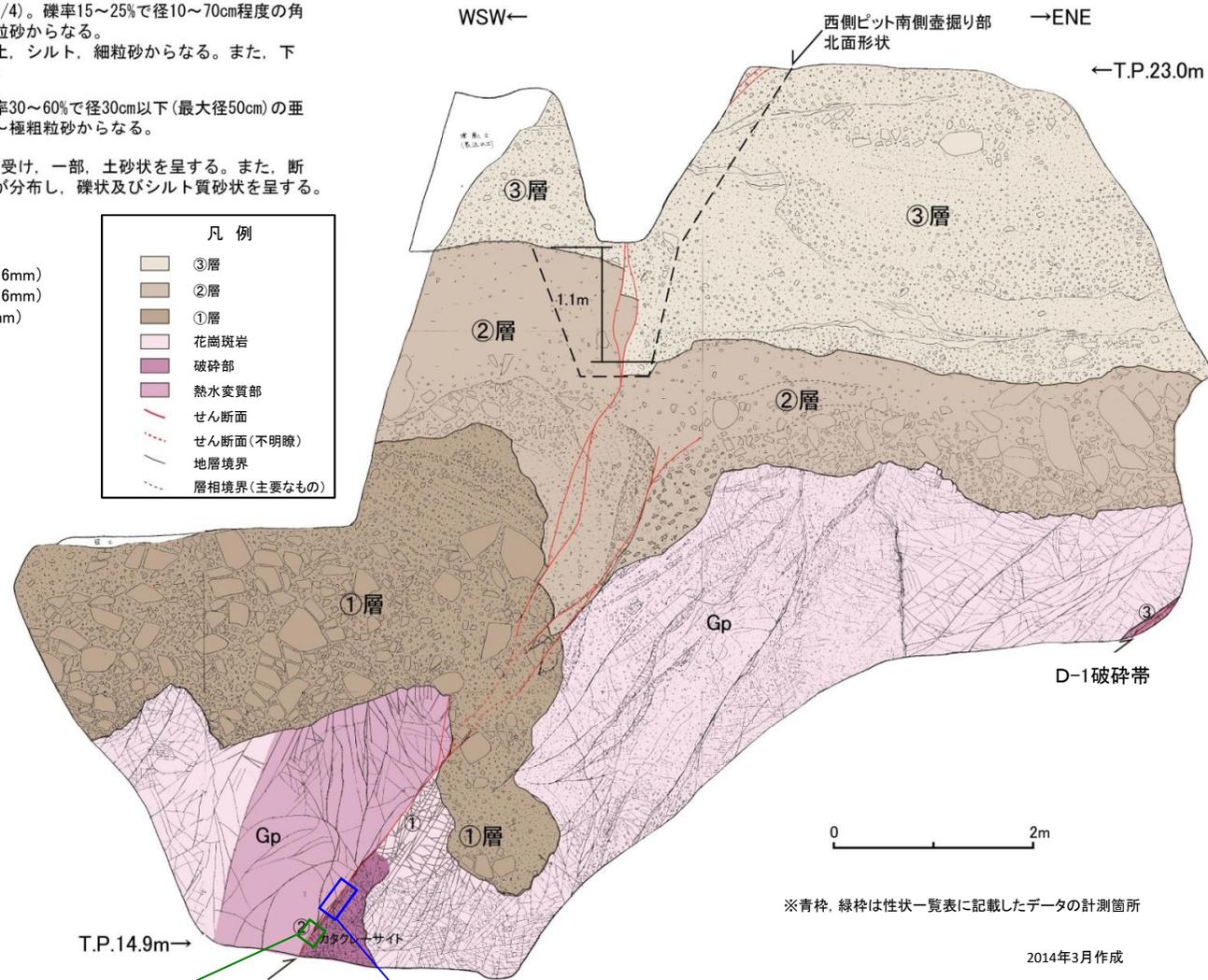
- ①：f: N14° W64° W 断層ガウジ(灰褐色粘土：幅2~6mm)
- ②：f: N10° W61° W 断層ガウジ(灰褐色粘土：幅3~6mm)
- ③：f: N6° E65° W 断層ガウジ(橙色粘土：幅2~15mm)

f: せん断面



調査位置図

断層ガウジ・断層角礫の幅計測箇所(1-1ピット北面)



※青枠、緑枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

2014年3月作成

走向・傾斜、条線方向計測箇所(1-1ピット北面：12箇所のデータを平均化)

K断層の性状(1-1ピット北面)

149 : ①層の色調修正

- 1-1ピット北面のスケッチを以下に示す。
- 1-1ピット北面では、K断層は基盤岩から堆積物(③層)までを逆断層的に変位させている。
- 基盤岩中では、K断層はN-S走向で高角度西傾斜である。最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果、縦ずれ成分が卓越する。

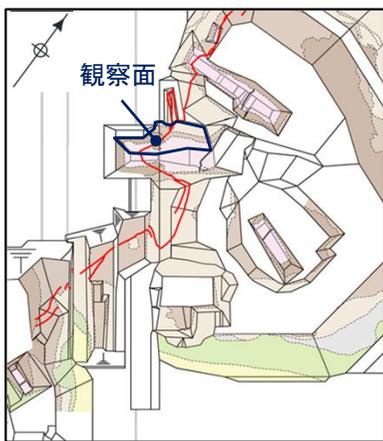
- ③層:砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR8/3)。礫率20~40%で径10cm以下の亜角礫からなる。淘汰は良い。基質は中~粗粒砂からなり、一部、細砂及びシルトからなり、細礫を含み、葉理が発達する。
- ②層:シルト質砂礫を主体とする。にぶい橙色(5YR7/4)。礫率15~25%で径10~70cm程度の角~亜角礫からなる。基質はシルト及び中~細粒砂からなる。上部には砂礫混じりシルトが分布し、主に粘土、シルト、細粒砂からなる。また、下部の一部には、シルト質砂礫が分布している。
- ①層:砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR8/3)。礫率30~60%で径30cm以下(最大径50cm)の亜角礫からなる。淘汰は極めて悪い。基質は中~極粗粒砂からなる。
- Gp:花崗斑岩:浅黄橙色(7.5YR8/4)。全体に風化を受け、一部、土砂状を呈する。また、断層周辺部では、花崗斑岩質の変質したカタクレーサイトが分布し、礫状及びシルト質砂状を呈する。花崗斑岩質の変質したカタクレーサイトは全体的に変質し、やや軟質でカタクレーサイトの特徴が認められる。また細粒部は網目状に分布する。

- ①:f:N14° W64° W 断層ガウジ(灰褐色粘土:幅2~6mm)軟質。
- ②:f:N10° W61° W 断層ガウジ(灰褐色粘土:幅3~6mm)軟質。
- ③:f:N6° E65° W 断層ガウジ(橙色粘土:幅2~15mm)軟質。

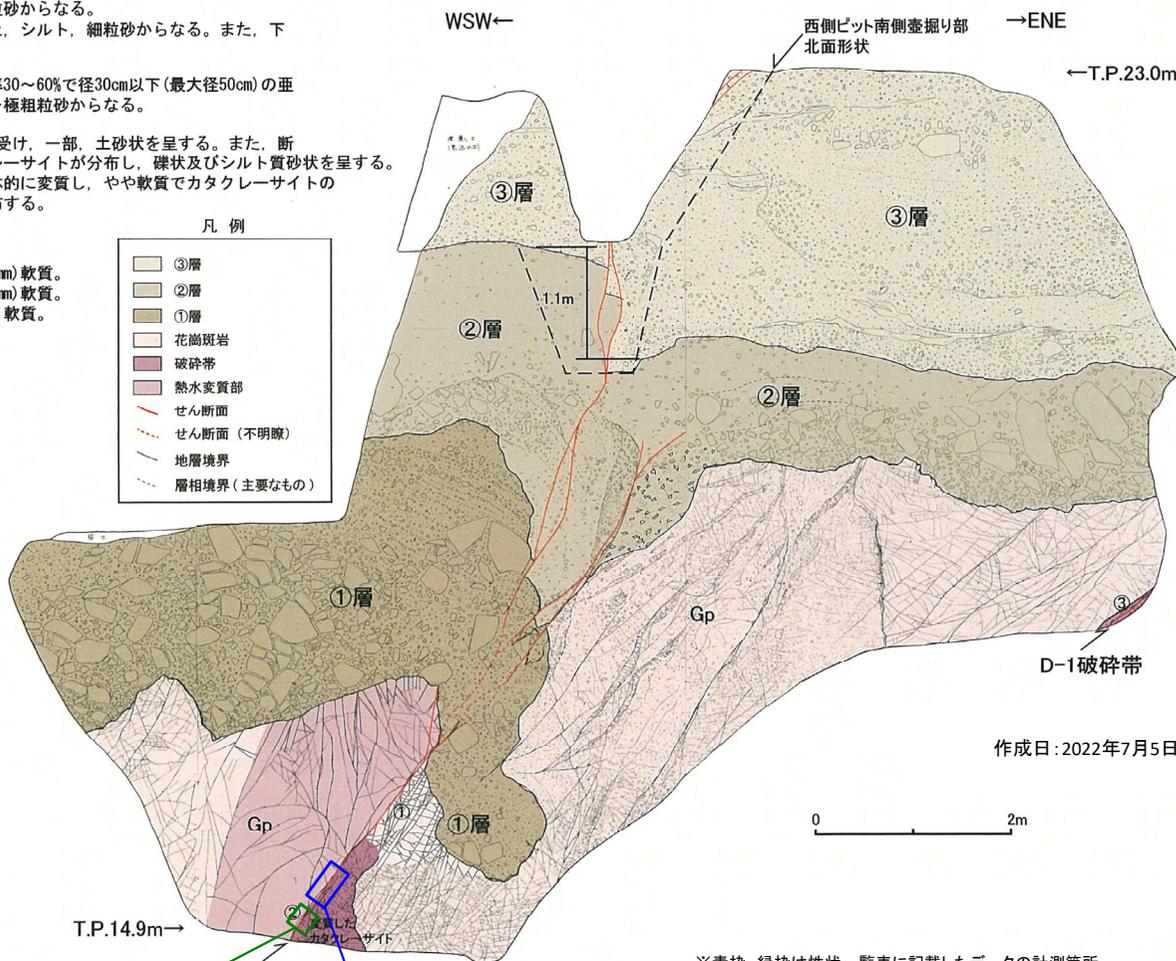
f:せん断面

凡例

③層	②層	①層	花崗斑岩	破碎帯	熱水変質部	せん断面	せん断面(不明瞭)	地層境界	層相境界(主要なもの)
(浅黄橙色)	(にぶい橙色)	(浅黄橙色)	(浅黄橙色)	(赤褐色)	(赤褐色)	(赤線)	(点線)	(実線)	(点線)



調査位置図



作成日:2022年7月5日



※青枠、緑枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

断層ガウジ・断層角礫の幅計測箇所(1-1ピット北面)

走向・傾斜、条線方向計測箇所(1-1ピット北面:12箇所のデータを平均化)

スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ③スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか

- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

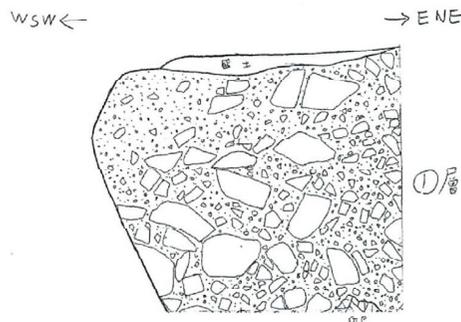
スケッチ

①層

- ・ 石少石礫主体 $\frac{8}{3}$
- ・ 浅黄橙 (7.5YR7/3)
- ・ 径20cm以下の亜角石礫主体, 最大径40cm
- ・ 石礫率 30~60%
- ・ 濁汰は悪い
- ・ 基盤は中〜極粒粒砂が主

G.P

- ・ 風化花崗斑岩
- ・ 浅黄橙 (7.5YR7/3)



作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者： [Redacted]

D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ③